

もりづくり予定地とその周辺調査

《森林教室・モニタリング下見》

日時 6月24日(木曜日)

対象 市民、講師、関係者

目的

もりづくり活動地とその周辺、参照林で森林の生物多様性に関する調査・観察をおこない、森林教室やモニタリングの素材探しと可能性について検討する。

ようやく雪も消え、遅い春がやってきました。

森林教室が行われる森づくり活動地で森林などの状況把握などをするため、講師の先生方と現場を観察して回り、モニタリングへ向けた検討を行った。

定山溪観光協会会長並びにみずもり会議会長の上野昌男氏より開会挨拶後、早速、調査に入った。

森林教室で森林づくりやモニタリング(森林の生物多様性)でご指導をいただく講師の方や市民も参加して活動予定地と森林づくりの見本とする参照林を調査観察した。

最後に意見交換をおこない閉会としました。

立地など

〔森林づくり予定地〕定山溪国有林 2115林班

〔参照林〕目標・参考とする森林 2121林班

・標高 730~740m

・定山溪温泉より24km

・主な樹種：エゾマツ、トドマツ、ミズナラ、ハリギリ、ダケカバ、シラカバ、キハダなど

ご指導いただく講師の先生

森林生態系、植生相、土壌	森林の生物多様性、植栽木などの配置、施業倒木更新、マウンド植栽、ミミズと土壌の関係などについて	北海道大学大学院地球環境科学研究院 准教授 春木 雅寛氏
菌類相	開放性・森林性菌類の違いと環境、キノコ、植物・動物と菌類の関係(寄生、腐性など)について	独立行政法人 森林総合研究所北海道支所 チーム長 山口 岳広氏
歩行生甲虫相(昆虫)	開放性・森林性昆虫の違いと環境、ピットホール・トラップについて	同上 チーム長 上田 明良氏
野生動物相	自動撮影装置について、外来種について、コウモリの生態について	同上 グループ長 平川 浩文氏
育種全般 《母樹選定、種子採取、精選、播種、苗木育成、植栽、保育・管理》	種子の結実状況と母樹選定、エゾマツなど郷土樹種と分布等について	独立行政法人森林総合研究所 林木育種センター北海道育種場 遺伝資源管理課長 高倉 康造
森林空中写真	空中写真判読、林層解読などについて	術士事務所 森林航測研究 代表 板垣 恒夫

参照林調査

森林内

〔参照林とは〕 森林づくりを行うに当たり、見本や参考とする森林です。



キノコ(菌類)調査の様子



立派なエゾマツ大径天然林が多くあります



見事なタモギダケ



ここにもキノコ



エゾマツ根際横、腐れ果てた寝木の上でその子孫と思われる倒木更新



この森林は、周辺と比較して樹種や菌類なども多く、森林生態系が豊かで樹木も生き生きしています。



クマゲラの古い食痕が腐朽したエゾマツに残っています

活動予定地調査

土場跡地とその
周辺の森林

かつて土場として使用していたところで植樹活動を行っていきます。
今後も木材利用のため集積または、作業場所として一部土場を残しました。



土場跡地の状態、写真手前と中間。写真上部に見えるハリギリ、ダケカンバ、ミズナラ周辺も施業をおこなっていきます。



土壌や植生などの状況を観察する参加者



土場跡地の状況



歩行性甲虫相の調査方法としてピットホール・トラップを検討。早速、コップを設置。



トラップの屋根づくり奮闘中



かつての丸太集積場辺りを観察